

# 性のあり方を性的指向と性自認でとらえる教員研修の効果

## —クィア・ペタゴジーに視点を当てて—

教育実践高度化専攻 児童生徒発達支援コース 養護教育実践系

氏 名 城所 美和

【目的】性のあり方を性的指向と性自認でとらえるため、クィア・ペタゴジーの実践を導入した研修内容を作成し、実践の効果を検証した。

【方法】教員 92 人を対象に研修を実施した(実践群)。これとは別に、教員 26 人を対象に質問紙調査のみ実施した(統制群)。なお、実践群の研修内容は、クィア・ペタゴジーの 4 つの実践方法に沿って作成し、実践事例を組み込んだ A 群と組み込まない B 群を設定した。調査尺度は、①用語理解②知識③態度④多様性理解・対等意識⑤同性愛嫌悪・トランス嫌悪である。

【結果】実践 A, B 群と統制群別に研修実施前後の①から③について  $\chi^2$  検定を行うと、実践 A, B 群, 統制群の間に有意差がみられた。一方、④と⑤は 2 要因の分散分析を行うと、実践 A, B 群, 統制群の間に交互作用が認められた。すべての尺度で、統制群より実践群の得点等は有意に高く、また、A 群の方が B 群よりもより高い効果が認められた。

【結論】クィア・ペタゴジーの 4 つの実践を取り入れた研修内容は効果があり、実践事例を組み込んだ A 群の方が、より効果が高まることが認められた。